

献血の仕組みについて。

平成20年、全国で1年間に約508万人（延べ数）の方々に献血のご協力をいただいています。血液は、酸素を運ぶ、病原体とたたかう、出血を止めるといった生命の維持に欠かせない役割を担っています。人工的に造ることができません。このため、病気やけがで血液を必要としている患者さんに血液を届けるためには、みなさんの献血が必要なのです。献血をしてくれる人の他にも、多くの人たちの努力で患者さんに安全な血液が運ばれています。ここでは血液が患者さんの元に届くまでの流れを紹介します。



■ 献血ルームなど

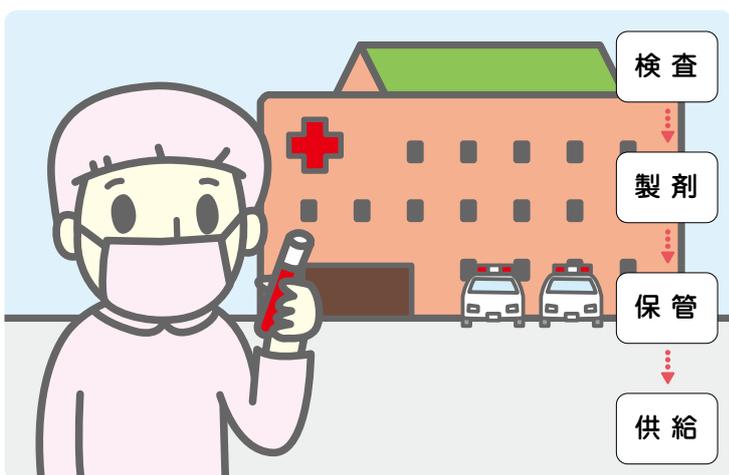
献血ができる場所には、お医者さんや看護師さんの他にも、呼びかけなどをするボランティアの方がいます。

献血には、一度でも輸血を受けた人は献血できない、という決まりがありますので、輸血によって生きる力をもらった人が、ボランティアで献血の仕組みを支えていることも多いのです。



■ 日本赤十字社 血液センター

献血された血液を患者さんに輸血できるように、血液の安全性を検査し、病院に届けるための準備をしています。また、献血をしてもらった血液を成分ごとに分けて目的にあった輸血用の血液を作ったり、保管したりする大切な役割もあります。



■ 病院・医療機関

血液センターから血液を受け取ると、患者さんに輸血を行います。病院では入院をしている人の手術用や、交通事故などの緊急用に血液が必要になるため、血液センターと密接に連絡を取り合っています。緊急時に備え、より多くの血液を確保する必要があります。

